

北海道開発局では、実務体験を通じて土木工学の生きた知識を学生に体験してもらい、将来を担う若者に建設業界の果たす役割の重要性と魅力を伝えるため、今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止対策を行いながら、標準（1週間から2週間）と短期（3日間）の就業体験実習を実施しました。

実習生	<ul style="list-style-type: none"> ・大学生、専門学校生、高等専門学校生 90名（19校） ・高校生 42名（8校）
期間	令和4年6月8日～令和4年9月27日
部門	河川事業、道路事業、港湾・空港事業、農業農村整備事業、電気通信事業、機械事業、営繕事業

実習内容例	<ul style="list-style-type: none"> ○北海道開発局の事業概要説明 ○現場見学 <ul style="list-style-type: none"> …工事現場や管理施設を見学してその役割や日々の管理などについて学んでもらいます（ダム、堤防、道路、橋梁、トンネル、港、空港、頭首工 など） ○実際の業務 <ul style="list-style-type: none"> …職員が実際に行っている各種調査や業務を体験してもらいます（工事現場監督、安全パトロール、流量観測調査、堤防点検、道路点検、図面作成 など） ○意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> …職員の生の声をきいて職場の雰囲気を感じてもらいます ○実習成果の発表 など
-------	---

●現場見学（ダム：河川）



●現場見学（道路）



●現場見学（農業）



●現場見学（機械）



●心頭工事現場見学（港湾）



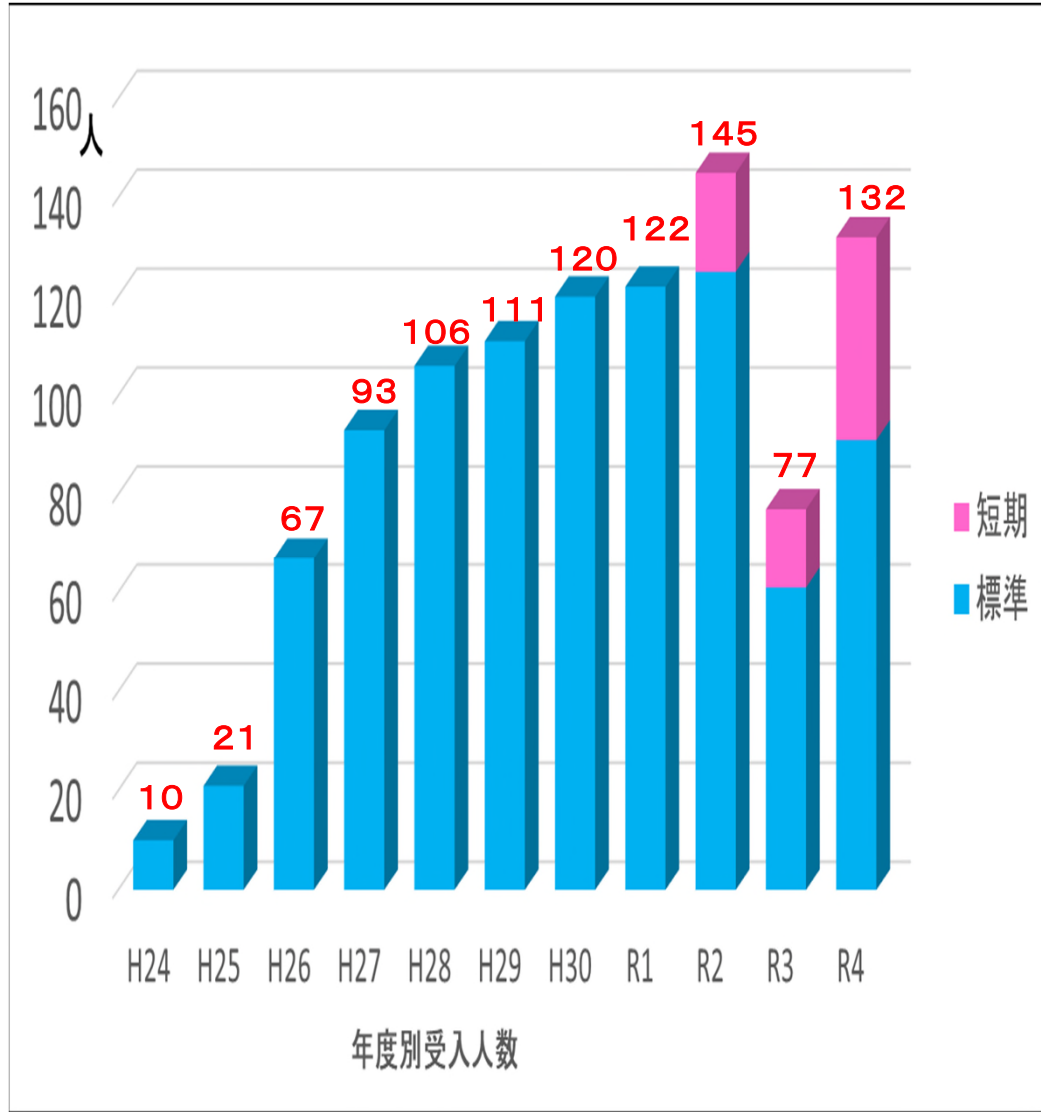
●実験場（寒地土木研究所）



実習生の声

- ・実際に工事現場を見ることで、大学で学んだことを生きた知識として理解することができ、学びが深まった。
- ・今回のインターンシップを通して、自分の将来をしっかりと考える機会になりました。
- ・仕事における規模の大きさ、責任の大きさ、それ故の面白さ、技術の進化等たくさんの事を学ばせていただきました。
- ・ICT技術が多く使われており、最先端の土木工事を見ることが出来た。
- ・発注者である開発局の仕事内容だけではなく、受注者の企業の方とも交流できたため、土木職というものを経験する様々な視点からお話が聞けてとても参考になりました。

インターンシップ部門別受入状況

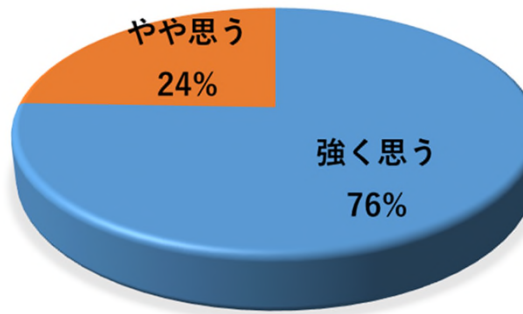


※令和3年度は、コロナによる緊急事態宣言の影響により、受入中止が発生したため、受入人数が減少した。
 ※令和4年度受入人数内訳 標準:91名 短期:41名 合計132名

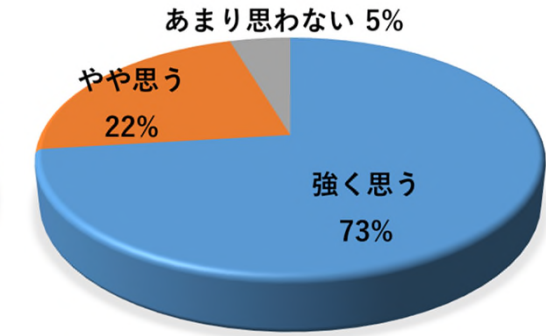
令和4年度 インターンシップアンケート

アンケート回答 高校生：42名、大学生等：90名、計132名

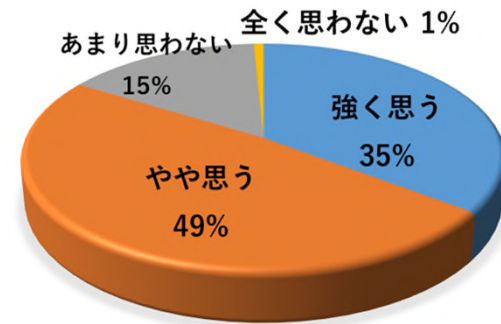
◎国土交通省の業務内容が理解できた。



◎国土交通省のやりがいや実感を理解出来た



◎実務に役立つ知識が身に付いたと思いますか。



◎職場の雰囲気が理解できたと思いますか。

